

体育科教育における体づくり運動授業の質向上のための 講習会の効果についての検討

渡 部 琢 也

I はじめに

現行の学習指導要領は小学校および中学校においては平成 20 年 3 月に告示され、高等学校においては平成 21 年 3 月に告示されている。「体づくり運動」は、小学校、中学校、高等学校の体育において必修とされており^{1) 2) 3)}、今回の改訂によって小学校低学年及び中学年も単独単元としての体づくり運動が求められる⁴⁾。単独単元としては、少なくとも 5、6 単位時間以上で構成される必要があり、中学校においては各学年とも 7 単位以上実施することと明記されている⁵⁾。小学校においては平成 23 年 4 月より完全実施とはなったものの、今回の改訂によって、新たに体づくり運動が導入された小学校低学年及び中学年においては、特に実施内容についての検討が必要となる。小学校高学年から中学校、高等学校においては、「体づくり運動」は、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」とによって構成されている。新たに加わった小学校低学年と中学年においては、低学年が「体ほぐしの運動」と「多様な動きをつくる運動遊び」(1、2 年生)、中学年が「多様な動きをつくる運動」(3、4 年生)で構成されている。低学年・中学年における「多様な動きをつくる運動(遊び)」とは、「体のバランスをとる運動」、「体を移動する運動」、「用具を操作する運動」、「力試しの運動」、そして 3、4 年生の中学年においてはこれらに加えて「基本的な動きを組み合わせる運動」で構成される。このような中で、文部科学省では完全実施前の平成 21 年度の移行期間に合わせて「多様な動きをつくる運動(遊び)パンフレット」(2008)を作成し⁶⁾、全国の小学校教諭に配布した。愛知県教育委員会では、体力づくり推進事業に関することとして、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に基づく子どもの体力向上支援事業(学校における支援事業)において、体力向上運動プログラムを作成し、リーフレットおよび DVD を作成(2011)し^{7) 8)}、そして講習会を実施した。また、体育スポーツ課の事業として、教育職員の学校体育の研修に関することとし、学校体育に関する研修会や講習会等を開催し、教員の資質向上を図るとし、特に、小学校の体育指導教員と中学校・県立学校の保健体育科教員を対象とした体育スポーツ実践講座を開催し、児童生徒の発育・発達段階に応じた体育指導ができる教員の育

成を行うとされている。平成 25 年度は、弁護士による「学校における体育・スポーツの危機管理について」と大学教員による「運動量を確保する授業実践のあり方」、「体づくり運動」であった。受講者は愛知県の小学校体育指導教員 30 名、中学校保健体育科教員 20 名、県立学校保健体育科教員 20 名であった。今回の実施の目的は、「生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現を図るための基礎を培う観点から、学校体育を充実させることが必要である。そのために、学校体育の指導に関する専門的な実践講座を開催し、講義や実技等を通して、教員の指導力向上をめざすとともに、学校体育に関する幅広い知識を身に付けることによって、より充実した体育授業を展開できる教員を育成する。」であった。体づくり運動は学校体育の基盤となる考えであり、またそれぞれの学校区分や学年単独で行うものではなく、連続的に変化する発育発達や学習過程に対応するものである⁹⁾。そして「体づくり運動」とは、小学校においては「体づくり運動」で学んだことを家庭で生かすことをねらいとし、中学校では学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるようにすることが求められる。そして高等学校においては、これまでの学習を踏まえて、地域などの実社会で生かすことができるようにすることが求められる。これらのことから学校体育において、体づくり運動が大変重要視されていることがわかる。一方で、幼稚園学習指導要領では、改訂のねらいの中で、幼稚園と小学校との連携を挙げている¹⁰⁾。今回の小学校学習指導要領では新たに保育所が加わった¹⁾。幼稚園のみならず保育所に通う幼児から小学校の児童における継続的な指導が盛り込まれ、平成 20 年 3 月に告示された保育所指針の第 4 章の保育計画及び評価の保育の計画の指導計画の作成上、特に留意すべき事項において「小学校との関係」から「小学校との連携」に変更され、小学校と幼稚園、保育所が共同で研修会の実施や情報交換を実際に実践することが求められる¹¹⁾。よって平成 20 年 3 月に告示された小学校学習指導要領および保育所指針に初めて明記された小学校と保育所の連携の事業として本講習会を実施した。そこで本研究においては、愛知県教育委員会において作成した「小学校低学年・中学年向け 多様な動きを作る運動（遊び）」や「平成 23・24 年度子どもの体力向上運動プログラム「活用事例集」〔多様な動きをつくる運動（遊び）〕¹²⁾、「活用事例集を活かした「指導案例」¹³⁾等を活用し「体づくり運動の講習会」を実施した。講習会終了後に「体づくり運動講習会アンケート」を実施した。講習会を実施することで、教師にとって参考になるものであるか、また学校における体育科教育においてどのように活用されることができのかを調査することを目的とした。加えて、今回、平成 20 年 3 月に告示された小学校学習指導要領および保育所指針に新たに加えられた保育所と小学校との連携についても調査することを目的とした。

II 方法

1. 対象

体づくり運動の講習会については 2013 年 9 月 5 日（木）に愛知県内小学校体育館において 15 時 30 分から 17 時 30 分の 2 時間実施した。その後、「体づくり運動講習会アンケート」を無記名

【調査報告】体育科教育における体づくり運動授業の質向上のための講習会の効果についての検討

で実施した。今回は率直な意見を集約するために、個人が特定されることが予想される年齢および性別、教職歴等は除外した。参加者は小学校教諭 11 名、保育士 7 名の計 18 名であった。

2. 講習会実施内容

講習会では体育の分野において特に幼児教育との連携を重視されていると考えられる体づくり運動における多様な動きを作る運動遊びを実施した。実施内容は愛知県教育委員会において作成した「小学校低学年・中学年向け 多様な動きを作る運動（遊び）」および「平成 23・24 年度子どもの体力向上運動プログラム「活用事例集」〔多様な動きをつくる運動（遊び）〕¹⁾²⁾、「活用事例集を活かした「指導事例」¹⁾³⁾等を活用し「体づくり運動の講習会」を行った。また、発育発達に関する内容および姿勢に関する内容についても実施した。

3. アンケートの質問項目

「体づくり運動講習会アンケート」は以下のような質問であった。1. 今回の研修についてどのように感じましたか。に対しては、「とても参考になった」、「参考になった」、「あまり参考にならなかった」、「期待外れだった」とした。2. 今回の研修会でよかったところ、参考になったところがあったら書いてください。3. 今回の研修でもっと聞きたい点があったら記入してください。4. 今回の研修を受けて実践してみたいと思うことがあったら書いてください。5. その他（研修全般にわたっての意見）。6. 保育園と小学校が今後どんな面で連携をとっていったらいいのかご意見をお聞かせください。であった。本研究においては明らかに誤字脱字であると思われるものを除き、記載されたコメントをそのまま記載した。

4. 分析方法

問 1 の四択の質問に関しては、「とても参考になった」を 4、「参考になった」を 3、「あまり参考にならなかった」を 2、「期待外れだった」を 1 の 4 段階としてそれぞれの数を集計し、また統計値として平均値とばらつきを見るためにその標準偏差を求めた。

Ⅲ 結果

「体づくり運動講習会アンケート」についての回答については、「1. 今回の研修についてどのように感じましたか」については、「とても参考になった（4）」は 61.1%の 11 名、「参考になった（3）」は 38.9%の 7 名であった。「③あまり参考にならなかった（2）」と「期待外れだった（1）」はともに 0%の 0 名であり（表 1）、4 点満点で、平均 3.61 ± 0.50 (N=18) であった（表 2）。

表1 今回の研修についてどのように感じましたか

	とても参考に なった(4)	参考になった (3)	あまり参考に ならなかった(2)	期待外れだっ た(1)
N	11	7	0	0
%	61.10%	38.90%	0%	0%

表2 問1の平均と標準偏差

	問1
平均	3.61
標準偏差	0.50
人数	18

※4点満点

1. 小学校教諭のアンケート結果について

「2. 今回の研修会でよかったところ、参考になったところがあったら書いてください。」に対しては、「体の成長期が男女で違うことが分かっているにもかかわらず一斉に体力づくり運動をしなければならないので、今回の一步一步の段階を踏んでやっていくことが大切であるということがわかりました。」「子どもたち姿勢について気になっていたもので、教えていただけてよかった。」「さっそく教室で2年生の授業の始めと終わりにやって、起立の姿勢が良くなってびっくりした。」「オスグッドについて知識を得ることができた。骨の伸びる時期に強い筋トレをするにはたびたび身長を図って、記録する必要があることが分かった。」「体を動かすことがとてもよかったです。実技が中心で分かりやすく楽しく研修ができた。」「保から小まで、それぞれに応じた動きを教えていただき参考になりました。」「具体的な動きの指導をしていただき、子どもたちにやらせてみようという気になった。また、動きの一つ一つの意味を教えていただき参考になった。」「体づくり運動が多様な動きを作る運動であることがわかってよかった。いままでの体づくりの運動は、筋力を鍛える運動のように感じていたので・・・。」「体づくりの運動の中の多様な動きを作る運動のねらいや行い方がよく分かった。子どもたちにどのように指導していけばよいかはっきりした。」「講師が、保育園ですること、それを受けて小学校がするとよいことを分かりやすく話して下さったので、明日から実践に移せる。」「実際の体験を保育園の先生と一緒に体験できてよかった。」であった。

「3. 今回の研修でもっと聞きたい点があったら記入してください。」に対しては、「姿勢がすぐ崩れてしまう子が多いので、良い姿勢を維持する方法があれば教えてほしい。」「発達段階に応じた体幹を鍛える方法を教えていただきたい。」「具体的な運動方法をもっと多く知りたい。」「体

【調査報告】体育科教育における体づくり運動授業の質向上のための講習会の効果についての検討

つくりの運動の中で、多様な動きを作る運動と体ほぐしの運動の違いをはっきりさせたい。今日の2人組の背中合わせで立つ運動は、体ほぐしの運動としてもよい気がしました。」「効果的に身長を伸ばす方法はあるのでしょうか。」であった。

「4. 今回の研修を受けて実践してみたいと思うことがあったら書いてください。」に対しては、「ラダーを取り入れたい。」「本日学んだ事すべて。」「手軽なので楽しくできたが、縦のつながりや継続して子どもの運動能力を高めるためにも系統立てていく必要性を感じた。」「2人組で活動する運動は子どもが集中して行えると思う。」「スキップができるようにギャロップからやってみたい。落ちてくるボールを受け止める動きを使って遊んでみたい。」であった。

「5. その他（研修全般にわたっての意見）。」に対しては、「職員がとても仲良くできた。」「2時間という長い時間であったが時間が過ぎるのがとても早かった。」「講師の先生がとても熱心に指導してくださりありがたかった。」「夏休み中にゆとりをもって研修できるとよいと思った。しかし子どもたちの顔を見てから授業に取り組んでいくイメージを作れたこの時期もよいと思った。」「教えるための技術を学ぶのはとてもうれしい。」「少し講義が長かった気がした。もっと実技をやってほしかった。でも楽しかった。」であった。

2. 保育士のアンケート結果について

「体づくり運動講習会アンケート」は、「2. 今回の研修会でよかったところ、参考になったところがあったら書いてください。」に対しては、「保育園と小学校の連携をとることの大切さを改めて感じた。」「保育園でもできる体づくりのことを教えていただいたので少しずつ遊びに取り入れたいと思った。」「姿勢をよくする方法を頭に入れながら気分転換にやりたい。」「リアクションキャッチでは、子どもに合わせて段階を落としながらボールにしたりタオルにしたりと変えていきたい。」「男の子、女の子の身長の伸びる時期は知っていたが、保育園の時期にも伸びる時期があることを知り、納得することができた。（毎月計測していると、前月たくさん伸びていることがあり、計測の仕方がいけないのかと思っていたが、間違っただけでなかったことが分かった）。」「スキップの苦手な子に対し、動きを嫌になることなく教えていきたいが、いざ教えるとなるとどのように動きを伝えていけばいいかわからなかったのも、とても参考になった。」「保育園の時期にどのような動きを経験しておくかと小学校につなげていけるかが分かった。保育園では遊びとして楽しめるのでとても勉強になった。」「正しい姿勢の作り方は、自分の肩の位置・胸の張り方などがかわっていることがわかり驚いた。」「様々なバランス力などの動きをゲーム感覚で行い、園児でもできるような「遊び」としての運動を教えていただきとても参考になった。」「遊びの中で様々な動きを取り入れゲーム感覚で楽しむことで、発達によいものとなることを知ることができました。現代の子は遊びを通して自然にできていた動きができていないので、保育園の生活の中で身に着けていけたらよいと思いました。」であった。

「3. 今回の研修でもっと聞きたい点があったら記入してください。」に対しては、「低い年齢層の体づくりについてもっと知りたい。」「ボール遊びについて・・・保育園でできるボールを使

った遊び。」「幼児の具体的な遊びには教えていただいた他にどのようなものがあるか知りたい。」であった。

「4. 今回の研修を受けて実践してみたいと思うことがあったら書いてください。」に対しては、「マリオネットが個人的にできるようになりたいと思った。ボールを使った遊びもおもしろそうだった。」「ギャロップ、ハイハイなど取り入れていきたいと思った。」「リズムジャンプや2人でせいの。」「どの運動も遊びとして楽しめるので実践したい。」「ボールを使ってキャッチしたり転がしたり、投げたりしてボール感覚に触れさせたい。」「ハンカチを頭の上ののせて落とす遊び。」であった。

「5. その他（研修全般にわたっての意見。）」に対しては、「保育園に対するアドバイスがありよかった。」「動きの意味、小学校での運動を保育園ではどのように経験させておくといいのか・・・など、具体的にわかりやすく教えていただいたので、とても勉強になった。また、実技では体を動かすことの気持ちよさ、相手とリズムを合わせて体を動かすことの集中力など、久しぶりに体験できて楽しかった。子どもたちにも、体を動かす楽しさ、できなかったことができるようになった時の達成感を味わえるようにしたいと改めて思った。」「とても楽しく研修に参加できました。子どもと楽しいという気持ちを共有しながら体づくりができたらいいと思った。」であった。

3. 保育所と小学校の連携に関するアンケート結果について

保育所と小学校の連携に関するアンケートは「6. 保育園と小学校が今後どんな面で連携をとっていったらいいのかご意見をお聞かせください。」であった。

保育士からは、「見出しにもあったように、『たくましく生きる力をもった青年』に導いていくためには、どのようなこと（活動等）を行っていくといいのか。このことを念頭に置きそれに向けて必要なことは何か、保育園・小学校でまとめ、お互いに意見交流ができるとよいのではないか。また、今回のように合同研修会を行うのも画期的でよかった。同じ子供像を目指すためには、共通理解が必要なので、研修等一緒に受けられるといいと思った。」「今回、小学校で応用がいろいろとできるように基礎となる動き、体のバランスなどは保育園でしっかりやっていただきたいという話を聞き、小学校へ上がってからのために、園でやっておいた方がよいことがあれば話を聞きたいと思った。」「小学校、保育園で話し合う機会を持つことで、小学校に上がる前にどのようなことを経験しておくといいか知ることができ、子供の成長につなげていけると思う。」「保育園で子どもの様子を伝え、共通理解をすると共に、運動面でもどのような形で進めていくのか考えながら行っていく。」「保育園と小学校との交流の場を多くもち、保育園児が小学校への期待の気持ちをもつことができるようにしたらいいと思いました。」であった。

教諭からは、「情報交換や参観の機会を年に数回設けるとよさそう。」「保護者とのかわり方をお互いに勉強しあう。」「保育園の先生にも授業参観してもらい、子どもの姿を見て、感じたことを教えてもらったり、子どもに直接声をかけてもらったりしてもよいと思う。」「今回の体づく

【調査報告】体育科教育における体づくり運動授業の質向上のための講習会の効果についての検討

りの研修は、連携にとっても良いと思えました。食育や生活のリズムづくりもチャンスがあれば、交流できるとよいと思えました。」「保育園で育てること、小学校で育てることがあるので、それぞれの現状や、やっていることを知って、それぞれの立場で日々の活動に生かしていけるとよいと思う。」「保育園から小学校へと段階を追って、系統立てた『体づくり指導案』（学校独自）ができるといいと思います。」「今夏の研修を実施して、保育園の先生方が熱心に研修に参加していただいているととてもうれしく思った。このような研修会が年に数回実施できると保小の連携がより確かなものになると思った。今後、気軽にこうした機会が持てるようになるといいと感じている。今後やってみたい研修として次のことを考えてみた。体作り運動 Part2、保護者対応、生活指導、授業参観、etc」であった。

IV 考察

本研究は体づくり運動の講習会として、愛知県教育委員会の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に基づく子どもの体力向上支援事業（学校における支援事業）として作成された、一連の体づくり運動の多様な動きをつくる運動（遊び）の運動プログラムを用いて、講習会を行った。また、運動や学習の際には正しい姿勢で臨む必要があることから姿勢のとり方、そして児童期および幼児期における発育に関して身長に着目した内容についても講習を行った。

1. 体づくり運動の講習会に対して

「1. 今回の研修についてどのように感じましたか」については、「とても参考になった（4）」は61.1%の11名、「参考になった（3）」は38.9%の7名であり、「あまり参考にならなかった（2）」と「期待外れだった（1）」はともに0%の0名だった。平均 3.61 ± 0.50 であった（ $N=18$ ）。全員が参考になったとの肯定的な答えであった。渡部の報告¹⁴⁾でも体づくり運動の講習会参加経験がある教員は、講習会は「参考になりましたか？」の質問に対しては、「大変そう思う（4）」は48.6%の17名、「そう思う（3）」は48.6%の17名、「あまり思わない（2）」は2.9%の1名、「まったく思わない（1）」は0%の0名であり、平均 $3.46 \pm 0.56S.D.$ （ $N=35$ ）であったと報告しており、講習会参加により体づくり運動への理解が深まることが示されている。体づくり運動は先にも述べたように最近取り入れられたものであり、現場レベルではまだまだ理解が浅く、講習会への参加により、教員の理解が深まることが示された。より質の高い授業を実施するためには今回実施したような講習会を開催することが求められる。今回の結果と他の結果を比較すると、今回の結果は「とても参考になった」と回答の割合が多く、平均点も高くなっている。この結果は、通常、講習会は学校の代表者が参加し、県全体または尾張地区や三河地域といったレベルで行われ、そして参加者からの伝達講習という形で全体へと伝えられることが一般的であると考えられる。今回は愛知県教育委員会で作成された体づくり運動の運動プログラムを用いて講習会を実施したが、作成した本人が講習会を行ったため紙面からだけでは伝わりにくい、目的や実施方

法そして応用方法について話ができることが最も効果的であった理由であると考えられる。回答を見るとそれぞれが参考になった点が具体的に示され、さらに学びたいと非常に前向きにとらえている姿勢が見受けられる。我々が作成した体づくり運動の具体的な運動プログラムに対して効果があると捉えられている結果であろう。我々研究者は机上の空論や独りよがりにならずに、現場の実情も踏まえ無理なく効果的な実践がおこなえるように研究していかなければならないと考える。

2. 小学校と保育所との合同体づくり運動講習会

小学校と幼児教育機関との連携は、同じ文部科学省管轄である幼稚園のみならず、厚生労働省管轄である保育所においても求められている。小学校学習指導要領（2008）の総則、第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項に、幼稚園や保育所と連携や交流を図ると明記されている。幼稚園教育要領（2008）第3章の第1の2特に留意する事項の「(5)小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること」とされている。保育所保育指針（2008）の第4章の1保育の計画の(3)指導計画の作成上、特に留意すべき事項のエ小学校との連携の中で「(ア)子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること」とされている。しかし、小学校と幼稚園、保育所との連携は、幼稚園教育要領解説^{1 5)}及び保育所保育指針解説書^{1 6)}において、小学校教育を先取りすることではないとされている。また、いわゆる小1プロブレムに対するものだけでなく、学校区分で区切られることなく子どもの連続的な発育発達や学びを支援していかなければならない。これらのことから幼児教育の遊びから学校教育の体育への連続的な移行が求められる。本結果から、小学校教諭からも保育士からも講習会実施に対しての肯定的な意見と前向きな意見が多くみられ、取り組んだ成果が伺える。今回の講習会は、隣接して立地している保育所と小学校ではあるが、国の政策に対して、独自にそして先駆的に取り組んだ事例であり、今後、より多くの地域において同様の取り組みが実施されることが求められると考えられる。

今回の学習指導要領の中で体育において最も注目すべき改訂は小学校の低中学年の体育の中に体づくり運動が取り入れられ、その中に「多様な動きを作る運動（遊び）」が取り入れられたことであろう。これは先にも述べた幼児教育から小学校への移行をよりスムーズにするための取り組みであろう。学校区分によらず、体育、特に体づくり運動は中核をなすものであり連続的に関わるものである。我々はこれらを認識して教育していかなければならないと考える。

謝辞

今回のアンケート調査に際して、ご協力いただいた先生方に対して謝意を表わす次第である。

【調査報告】体育科教育における体づくり運動授業の質向上のための講習会の効果についての検討

文献

- (1)文部科学省 小学校学習指導要領 2008
- (2)文部科学省 中学校学習指導要領 2008
- (3)文部科学省 高等学校学習指導要領 2008
- (4)文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 2009
- (5)文部科学省 中学校学習指導要領解説体育編 2009
- (6)文部科学省 多様な動きをつくる運動（遊び）パンフレット 2008
- (7)森勇示, 渡部琢也ら:小学校低学年・中学年向け 多様な動きを作る運動（遊び）, 愛知県教育委員会, 2011.
- (8)愛知県教育委員会:小学校低学年・中学年向け 多様な動きを作る運動（遊び）バージョンアップ一覧, 愛知県教育委員会, 2012.
- (9)文部科学省 学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動—授業の考え方と進め方—（改訂版） 東洋館出版社 2013年
- (10)文部科学省 幼稚園教育要領 2008
- (11)厚生労働省 保育所保育指針 2008
- (12)森勇示, 渡部琢也ら:平成 23・24年度子どもの体力向上運動プログラム「活用事例集」〔多様な動きをつくる運動（遊び）〕, 愛知県教育委員会, 2013年.
- (13)愛知県教育委員会:活用事例集を活かした「指導案例」 小学校:1年生実践、2年生実践、3年生実践〕, 愛知県教育委員会, 2013.
- (14)渡部琢也:体育科教育における体づくり運動の現状について、名古屋経営短期大学紀要 55 2014
- (15)文部科学省 幼稚園教育要領解説 2008
- (16)厚生労働省編 保育所保育指針解説書 2008

(名古屋経営短期大学総合ビジネス学科 准教授)